

水稲の生育状況と今後の管理対策（第8号）

令和3年7月30日
新潟県農林水産部

〔7月29日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリの生育は、県全体では指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数、葉数の進みは「並」、葉色は「やや淡い」状況です。茎数と葉色の地域差、ほ場差が大きくなっています。
- ◎ 新之助の生育は、指標値に比べ、草丈、茎数、葉数の進みはいずれも「並」、葉色は「やや淡い」状況ですが、地域差、ほ場差が大きくなっています。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 7月29日発表の1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は、平年より高く、特に8月13日までの期間の前半はかなり高くなる見通しです。
- ◎ コシヒカリでは、出穂期（県平均で8月3日、平年に比べ1日早い）以降、かなりの高温が見込まれるため、葉色の淡いほ場では後期栄養の不足が懸念されます。

〔今後の管理対策のポイント〕

コシヒカリ

- ◎ 出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。飽水管理^{*1}を引き続き徹底し、根の活力維持と上根の発生促進を図るとともに、地温の上昇を抑えてください。
- ◎ 出穂期以降も高温が見込まれていることから、2回目の穂肥^{*2}以降の葉色の低下が大きい場合には、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、出穂期の3日前までに追加の穂肥を施用してください。
- ◎ 有機質100%肥料を穂肥に利用する場合は、肥料の特性を確認した上で、早めに施用してください。
- ◎ 斑点米カメムシ類の被害を抑えるため、適期防除を徹底してください。

新之助

- ◎ 飽水管理を継続し、根の活力維持を図り、地温の上昇を抑えてください。
- ◎ 地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、分施肥体系の2回目の穂肥は、葉色が淡い場合は増肥して栄養凋落を防止してください。
また、全量基肥施肥^{*3}のほ場で出穂期の葉色が確保できず栄養凋落が予想される場合や2回目の穂肥以降の葉色の低下が大きい場合は、気象やほ場条件等を十分に考慮した上で、追肥を検討してください。
- ◎ ほ場をよく観察し、いもち病に加え、紋枯病の発生にも十分注意して、発病を認めた場合は遅れずに薬剤防除を行ってください。

早生品種

- ◎ 登熟初期（出穂後 10 日間）の高温により胴割粒の発生が懸念されます。
- ◎ 出穂期 25 日後まで飽水管理を継続し、根の活力を維持して土壌からの窒素供給を図り、登熟後期までの栄養を確保してください。
- ◎ 多肥栽培では、いもち病の発生に注意し、穂いもちの予防防除を適切に行ってください。
- ◎ 高温により登熟の進みが早まる可能性があります。刈り遅れによる品質低下を防ぐため、収穫適期を見逃さないよう注意してください。

*1 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

*2 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

*3 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

熱中症予防

- ◎ 厳しい暑さが続きます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。
- ◎ 特に、「熱中症警戒アラート」が発表されている日は、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境になると予想されますので、熱中症の予防行動を積極的にとってください。

フェーン発生時の対応

- ◎ 県からのフェーン緊急情報や週間天気予報、台風情報等に注意し、強風やフェーン現象等による高温・乾燥が予想される場合には、品質低下（白穂、白未熟粒、胴割れ）を軽減するため、地域の用水計画に応じて、早めの湛水に努めてください。

- ◎ 今後の管理対策発信予定日 8月20日、9月10日

〔補足資料〕

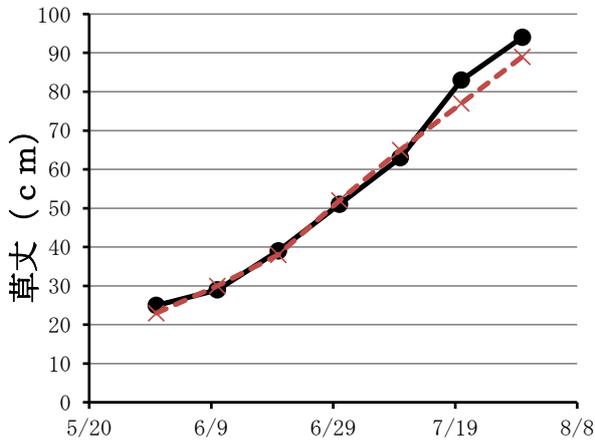
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月29日現在）

コシヒカリ

○ 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや淡い」状況です。

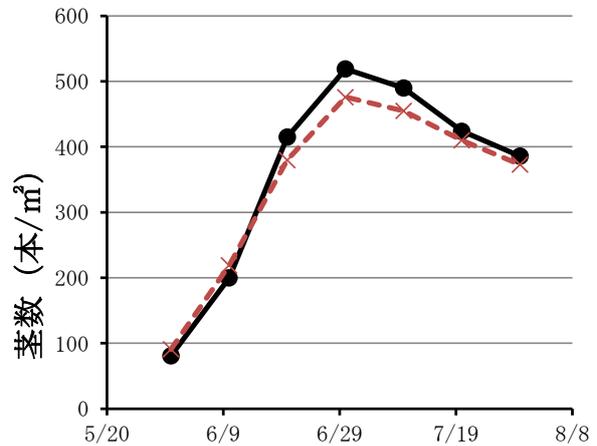
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	94 cm	89 cm	やや長い	106%
茎数	386 本/m ²	373 本/m ²	並	103%
葉数	13.2 葉	13.0 葉	並	+0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	31.5	33.0	やや淡い	-1.5

注) 県内全域の115生育調査ほデータの平均値（田植え5月10日、栽植密度16.9株/m²）



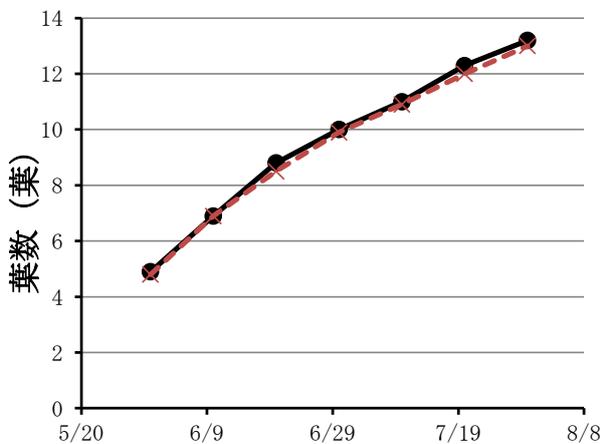
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移
(県全体)



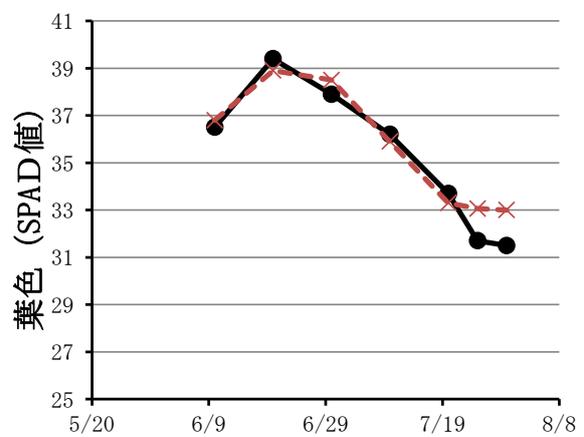
● 本年値 -x- 指標値

茎数の推移
(県全体)



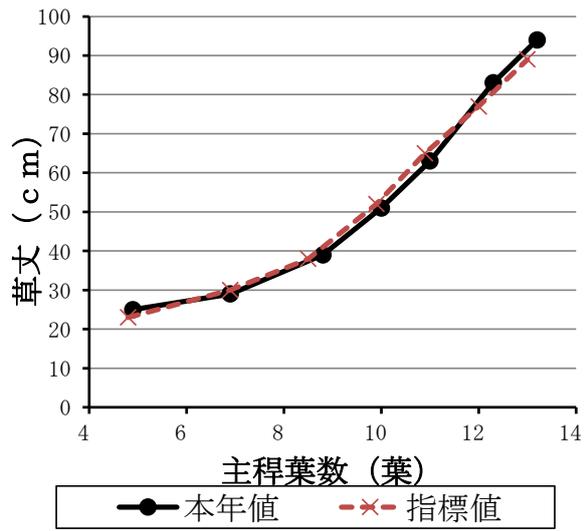
● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移
(県全体)

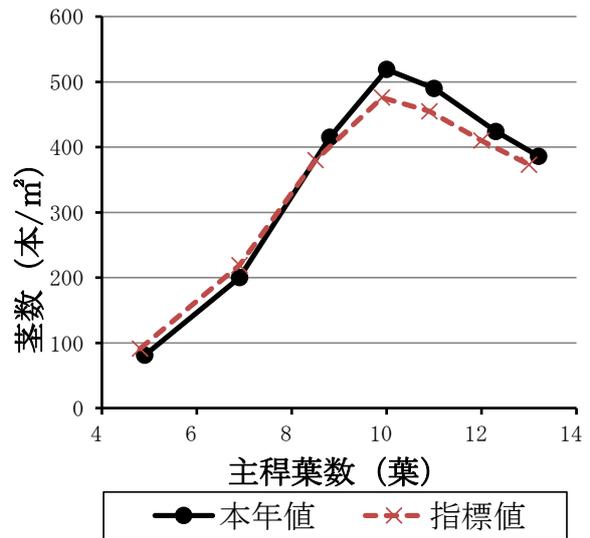


● 本年値 -x- 指標値

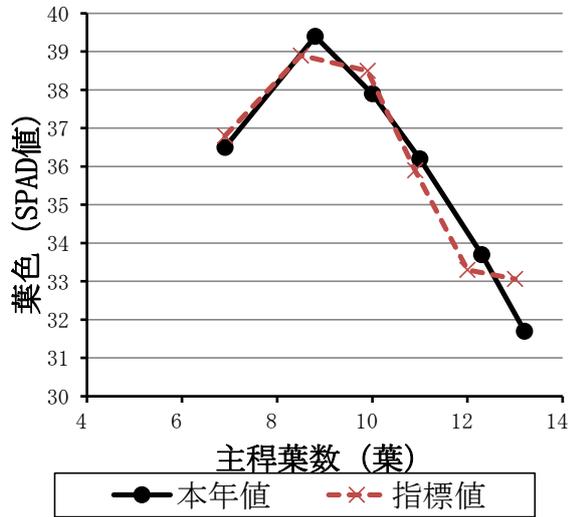
葉色の推移
(県全体)



葉数と草丈
(県全体)



葉数と茎数
(県全体)



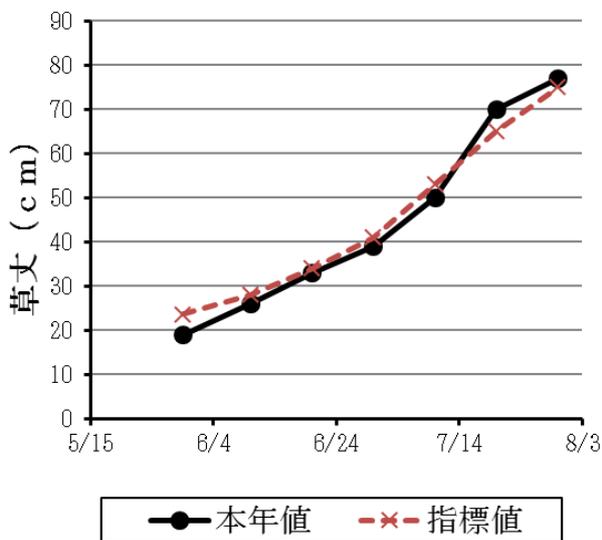
葉数と葉色
(県全体)

新之助

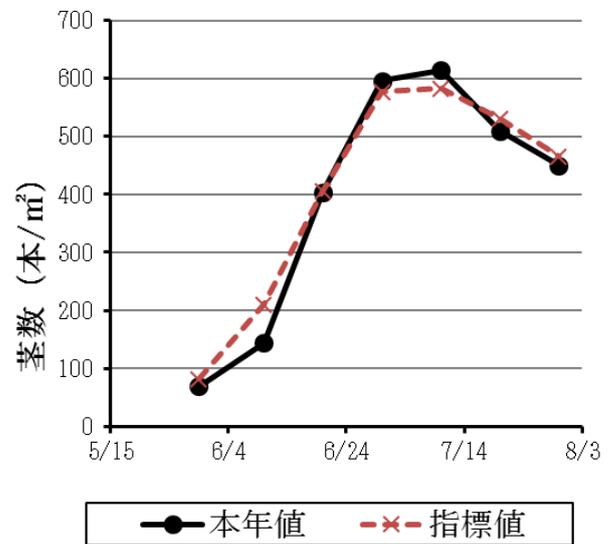
- 指標値に比べ、草丈、茎数、葉数の進みはいずれも「並」、葉色は「やや淡い」状況です。出穂期は平年並の8月10日頃と予想されます。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	77 cm	75 cm	並	102%
茎数	450 本/m ²	466 本/m ²	並	96%
葉数	13.4 葉	13.4 葉	並	±0 葉
葉色 (SPAD 値)	32.6	34.3	やや淡い	-1.7

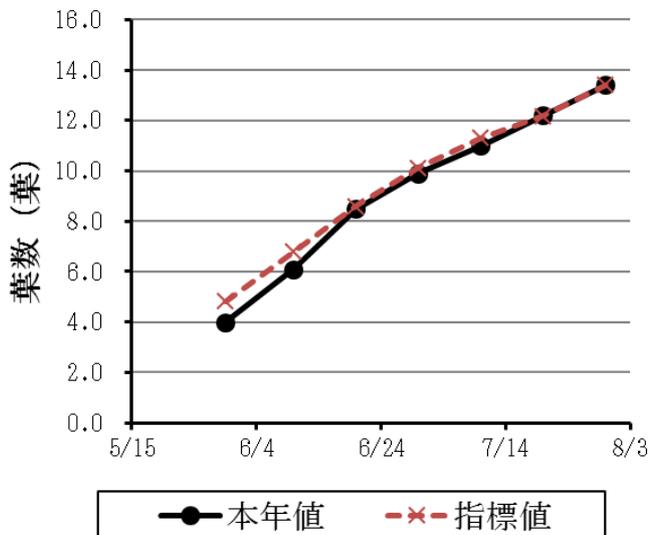
注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月18日、栽植密度16.0株/m²)



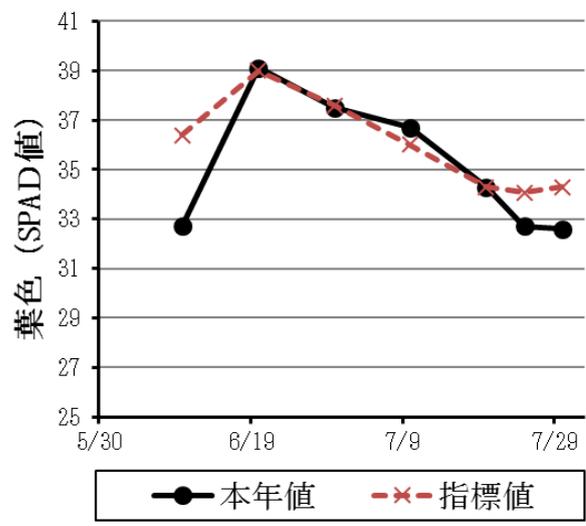
草丈の推移
(県全体)



茎数の推移
(県全体)



葉数の推移
(県全体)



葉色の推移
(県全体)

こしいぶき (参考)

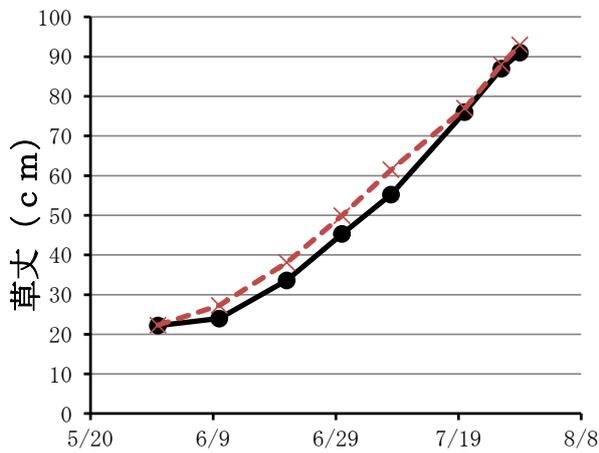
- 指標値に比べ、草丈は「並」、推定穂数は「少ない」、葉数は「並」、葉色は「並」の状況です。
出穂期は平年より1日早い7月27日でした。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	91 cm	93 cm	並	98%
推定穂数	395 本/m ²	440 本/m ²	少ない	90%
葉数	12.8 葉	12.8 葉	並	±0.0 葉
葉色 (SPAD 値)	35.2	35.5	並	-0.3

注1) 化学肥料栽培 田植え5月10日、栽植密度は20.7株/m²、幼穂形成期7月8日(平年差+2)

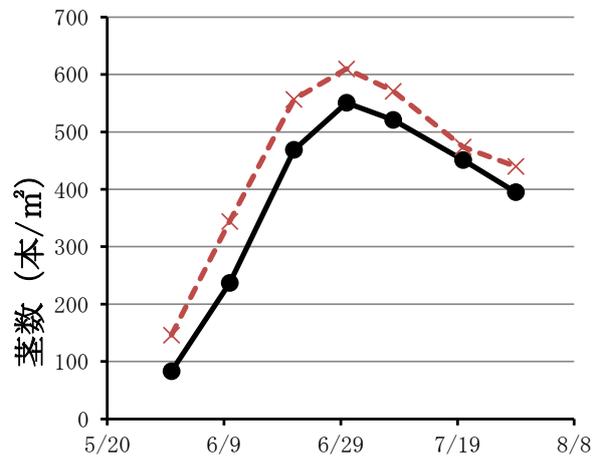
注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量2.0kg/10a (1.0kg×2回分施; 7月6日、7月15日)

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



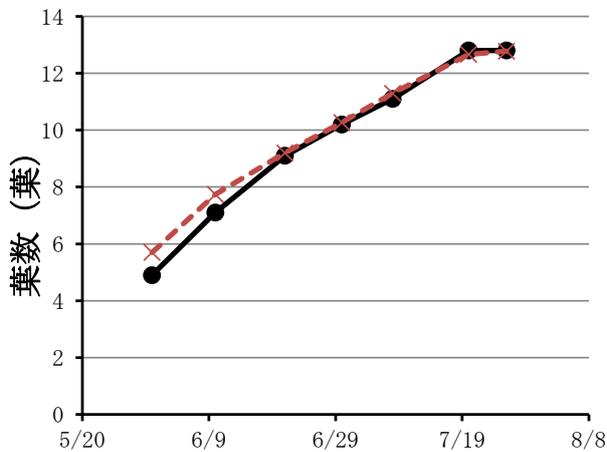
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移



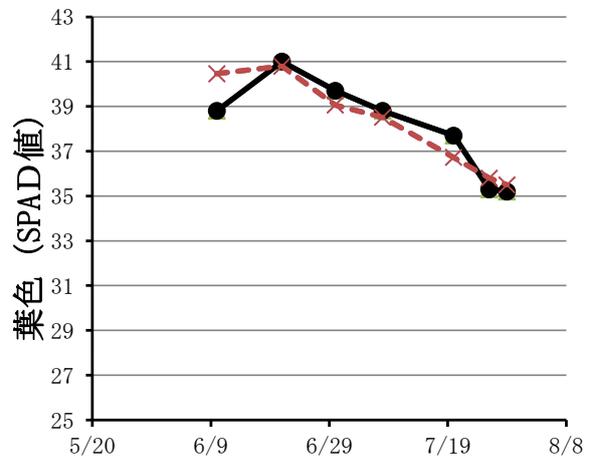
● 本年値 -x- 指標値

穂数の推移



● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移

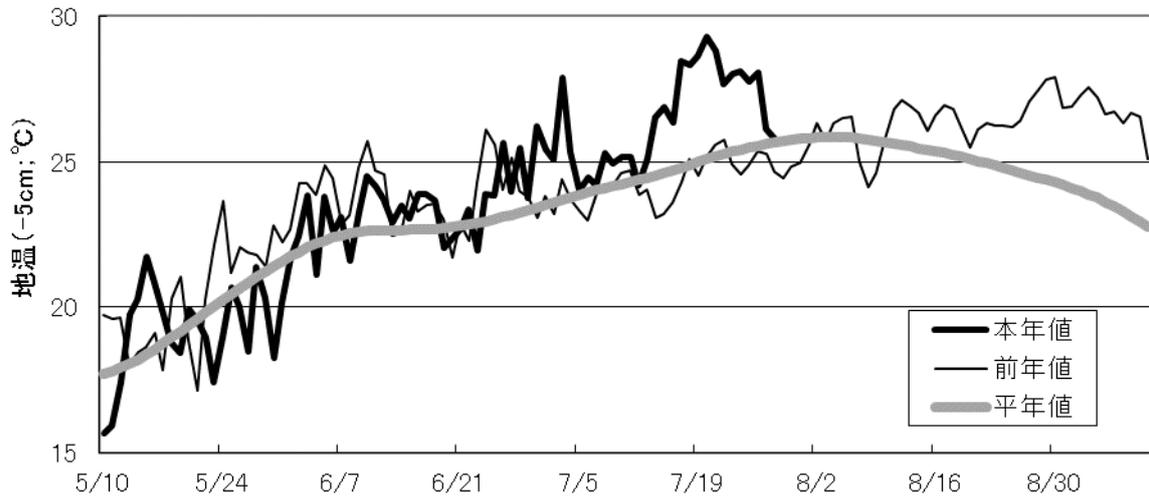


● 本年値 -x- 指標値

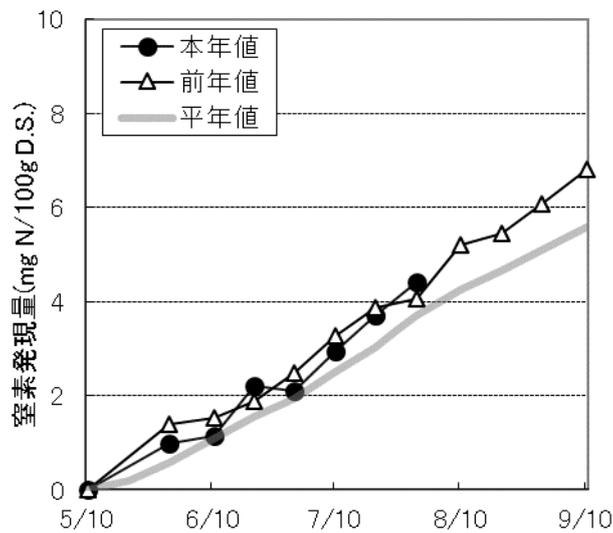
葉色の推移

2 ちりよく 地力窒素の発現状況

- 7/20～7/28 の期間の日平均地温は平年差+1.2℃でかなり高めでした。地力窒素の発現量は平年よりやや多めでした。



水田地温 (-5cm) の推移
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素の発現推移(7月28日)

(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)

初期値=0、移植日：5月10日、化学肥料栽培

基肥窒素成分量：3.5 kg/10a